

2024年度「こども食堂・学校 架け橋プロジェクト」

# 事業成果報告書

---

認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ

# 「こども食堂・学校 架け橋プロジェクト」の概要

## ■目的

こども食堂と学校との協働を通して、こども食堂の活動への理解や共感を醸成し、地域課題を「自分事化」する子どもたちを育む。また、同活動を通して、地域のこども食堂と学校・教育委員会等の結びつきの強化も目指す。

## ■受託者：

都道府県域、市区町村域、圏域のこども食堂ネットワーク団体

## ■委託期間：

2024年10月頃～2025年3月

# 「こども食堂・学校 架け橋プロジェクト」実施の背景

## ■こども食堂について

こども食堂は2024年時点で全国に10,867箇所程度あり、全国の公立中学校数に並ぶほどの広がりを見せています。

([2024年度こども食堂全国箇所数調査](#))



また、こども食堂が家でも学校でもない第三の居場所として地域の中で果たす役割は大きく、「家でも学校でも見られない生き生きとした子どもの姿をこども食堂で見ることができた」「不登校傾向にあった子どもがこども食堂に訪れることで再び学校に通えるようになった」といったエピソードを数多く寄せていただいています。

# こども食堂・学校 架け橋プロジェクト実施の背景

## ■こども食堂・学校の連携における課題と可能性

一方で、同じくむすびえが実施した「[こども食堂の現状&困りごとアンケート](#)」では、回答したこども食堂運営者の11.3%が「学校・教育委員会から協力を得られない」ことをこども食堂の困りごととして実感していると回答したほか、「必要な人（貧困家庭など）に周知・広報し支援を届けること」（56.3%）の文脈においても、学校との連携が必要との声もあがっています。

また、2020年文部科学省「新教育要領」では、「教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること」がうたわれており、教育課程において地域が果たせる役割の可能性が示唆されています。



## 「こども食堂・学校 架け橋プロジェクト」実施の背景

こうした中、こども食堂と学校と連携をはかり、こどもをまんやかに置いた地域づくりや、将来の地域活動の担い手の育成に資する先駆的な活動を実践されている方々が全国にいらっしゃることもわかってきました。

本年度はこうした取り組みを地域の実情に応じてさらに充実させ、実践事例として全国のこども食堂やネットワークの皆さんと共に学びあう場を設けられたらと考え、本事業を実施しました。

# 事業実施団体と事業内容

## 1. ふうどばんく東北AGAIN（※以下「AGAIN」）

### 「様々な入口から繋がる学校連携事業」

高校・大学と連携したイベント開催、部活動の一環として校内を活用したこども食堂開催、学びの多様化学校（不登校特例校）との連携、中学生の職業体験受入れなど様々な取り組みを通し、こども食堂と学校との連携を強化。

## 2. 信州こども食堂ネットワーク（※以下「信州」）

### 「A（ええ！） こども食堂」

信州大学附属松本中学校で、クラス全員で校内を活用したこども食堂を開催。探究学習で扱っている様々なテーマと関連させながら、中学生が中心となり企画から準備、当日運営まで、地域のこども食堂運営者の協力を得ながら実施。

## 3. 十勝こども食堂・地域食堂ネットワーク（※以下「十勝」）

### 「帯広農業高校生が作った小麦粉で本格ピザをつくってみよう！」

こども食堂、帯広農業高校、地元製パン会社などが連携し、校内でこども食堂を開催。高校生が栽培した小麦を使った本格ピザを、参加したこども達とつくって食べる等の活動を実施。子どもたち・高校生双方が地域活動への関心を高め、学校と地域を繋ぐことを目指した。

## 事業実施団体と事業内容

### 4. ふくしま子ども食堂ネットワーク（※以下「ふくしま」）

「高校の探究学習と連携した、高校生によるこども食堂の企画・運営モデル構築事業」

福島県内3エリアで、高校の探究学習の時間、サポートルームの時間を活用し、高校生と協働でこども食堂を企画・実施。学校と連携した取組みを通して、コミュニティの中で安全安心の場づくりを目指した。

### 5. 福岡県こども食堂ネットワーク（※以下「福岡」）

「学校の先生向け こども食堂体感ツアー」

小・中学校教職員のこども食堂への理解向上を目指し、動画やパンフレットなどの啓発ツール作成や、見学ツアーを実施。不登校の子どもたちの居場所としての役割についても認知を深めることを目的に企画。

### 6. 大阪府こども食堂ネットワーク（※以下「大阪」）

「こどもつなぐプロジェクト」

「“こどもの声”を届ける～絵本作り～」と「田んぼ体験～食と生命～」を実施。事業を通して学校関係者と協働プロジェクトを実施できる体制を整えることを目指して企画。



# 事業実施団体と対象

各団体の活動の対象は以下の通りです。

★：直接的な事業対象 ※申請段階から変化をもたらすことを目的としていた対象

★：間接的な事業対象・協働先 ※報告段階で副次的な変化がもたらされた対象や協働先など

	1. AGAIN	2. 信州	3. 十勝	4. ふくしま	5. 福岡	6. 大阪
小学生	★					
中学生	★	★				
高校生	★		★	★		
大学生	★					★
先生	★	★	★	★	★	
行政						★
教育委員会	★				★	★
その他	★学びの多様 化学校、学 童、企業	★保護者	★地元企業、 スクールソー シャルワー カー（申請 者）			



# こども食堂・学校 架け橋プロジェクト 6団体の活動のまとめ

## 1. こども食堂と学校が連携することの成果・価値

- a) 子ども達にもたらされる効果
- b) 地域にもたらされる効果
- c) 学校・こども食堂にもたらされる効果

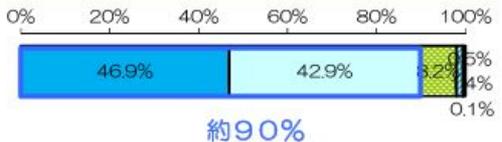
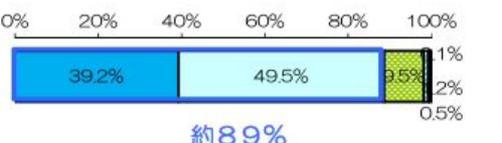
## 2. こども食堂と学校が連携する上での課題とヒント

- a) 接点づくりの課題
  - i) 「繋ぎ役」の存在
  - ii) 連携しやすい周辺団体へアプローチ
  - iii) 連携しやすい接点を提示
- b) 相互理解の課題
  - i) 学校側の理解を促す
  - ii) こども食堂側の理解を促す
- c) 実施と継続の課題
  - i) 先生方の既存の業務の中で連携
  - ii) 予算の確保
  - iii) 事例の共有・発信

# 1. こども食堂と学校が連携することの成果・価値

## a) 子ども達にもたらされる効果 (1/2)

「地域学校協働活動の実施状況アンケート調査」にて多くの学校が認知している地域学校協働活動の効果のうち、子どもたちへの効果に挙げられている「**地域への理解・関心への深まり**」と「**コミュニケーション能力の向上**」は、こども食堂と学校との連携においても見受けられた。

文部科学省資料	本事業における成果（各団体の成果報告より）						
<p>実際に事業に参加してみて、子供たちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、<b>地域への理解・関心が深まった。</b></p>  <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <table border="1"><tr><td>46.9%</td><td>42.9%</td><td>8.2%</td><td>1.5%</td><td>0.4%</td><td>0.1%</td></tr></table> <p>約90%</p>	46.9%	42.9%	8.2%	1.5%	0.4%	0.1%	<ul style="list-style-type: none"><li>● 学校の枠にとらわれない、新しい地域のコミュニティ形成ができた。防災、高齢者支援等への波及も期待（福島）</li><li>● 十勝、ひいては日本の農業をリードしていく気概にあふれた生徒が多いが、今回の事業を通してさらに「地域活性化」「社会とのつながり」「こども食堂への支援や参加」「ボランティアという生き方」「幸せとは」・・・等について自分なりに考えを深められた様子がアンケートより読み取ることが出来た（十勝）</li></ul>
46.9%	42.9%	8.2%	1.5%	0.4%	0.1%		
<p>実際に事業に参加してみて、子供たちが地域住民と交流することにより、様々な体験や経験の場が増え、<b>コミュニケーション能力の向上</b>につながった。</p>  <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <table border="1"><tr><td>39.2%</td><td>49.5%</td><td>9.5%</td><td>1.1%</td><td>0.2%</td><td>0.5%</td></tr></table> <p>約89%</p>	39.2%	49.5%	9.5%	1.1%	0.2%	0.5%	<ul style="list-style-type: none"><li>● クラスメイトやこども食堂の方、保護者の方々、遊びに来てくださった方々など大勢の人との関わりがあって実現した一方、「すべてがうまくいくとは限らないことも体感」（信州）</li><li>● 子どもたちは、考えていることを必ずしもすぐに言語化できるわけではない。ゲームやアート（絵画、演劇）などを通じて、さまざまな形で表現してもらったことも考えられたら（大阪）</li></ul>
39.2%	49.5%	9.5%	1.1%	0.2%	0.5%		



※図表は平成27年度「地域学校協働活動の実施状況アンケート調査」結果より文部科学省作成

# 1. こども食堂と学校が連携することの成果・価値

## a) 子ども達にもたらされる効果(2/2)

加えて、こども食堂との連携ならではの効果として、以下の成果が見られた。

### ■利他的活動に触れることによる道徳的効果

- 中学生が「子ども食堂」や「居場所」、「幸せ」といった言葉や概念に対してもイメージの変化（具体化）幸せとは何かをより深く考えるきっかけに（信州）

### ■食育的効果

- 農業高校の学生が自分たちで栽培した小麦を使ったピザづくりを、こども食堂に参加する子ども達に教える体験を通して、食べ物を大事にする、生産者への感謝、一緒に食べる幸せなどを体感（十勝）

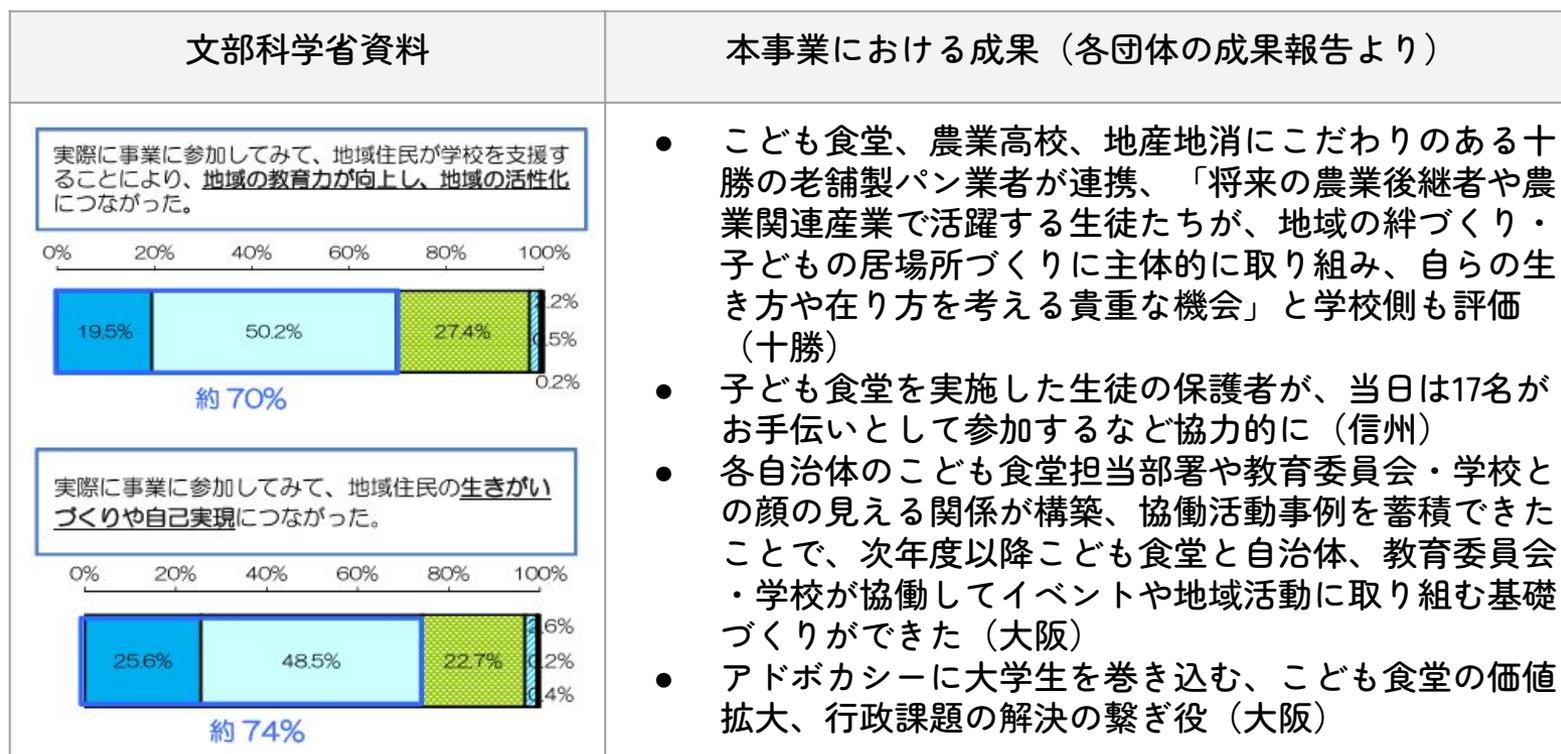
### ■居場所の獲得とそれによる視野の広がり

- 学校・先生へ理解が広がることで、不登校の子の居場所が増える（福岡）
- 不登校認定校西成田教室は少人数制の中学校。こどもの居場所が敷居が高い子たちもいるので、校内で大人・社会と触れる機会も求められている（宮城）
- 学生ボランティアの居場所にもなっており、福祉やこども関係の進路を選択する子も（宮城）

# 1. こども食堂と学校が連携することの成果・価値

## b) 地域にもたらされる効果

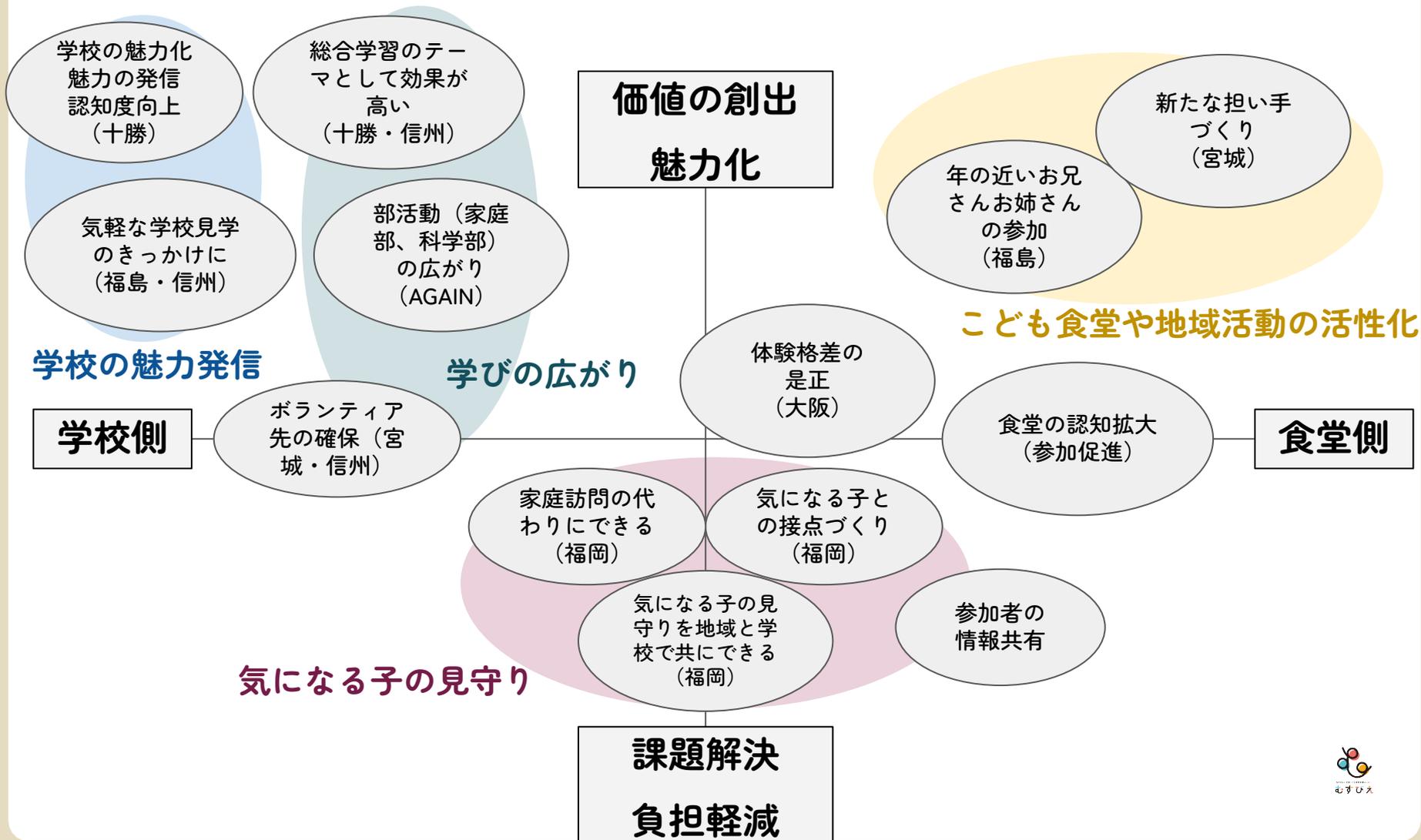
多くの学校が認知している地域学校協働活動の効果のうち、地域への効果に挙げられている「地域の教育力向上による地域活性化」「地域住民の生きがいづくりや自己実現」は、こども食堂と学校との連携においても見受けられた。



※図表は平成27年度「地域学校協働活動の実施状況アンケート調査」結果より文部科学省作成

# 1. こども食堂と学校が連携することの成果・価値

## c) 学校・こども食堂にもたらされる効果



むすびえ

## 2. こども食堂と学校が連携する上での課題とヒント

課題	ヒント ※ ( ) の記載の無いものはヒアリング等での情報や追加のアイデア
<b>接点づくりの課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>「繋ぎ役」の存在</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ スクールソーシャルワーカー（十勝）／学識者、学生が間に入る（大阪、福岡）／こども食堂地域ネットワーク団体（福島） など</li> </ul> </li> <li>● <b>連携しやすい周辺団体へアプローチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学童クラブ（AGAIN）／学びの多様化推進校（AGAIN）／既に繋がりのある行政機関（大阪、AGAIN）／教育委員会（福岡） など</li> </ul> </li> <li>● <b>連携しやすい接点を提示</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 探究学習（十勝、信州、福島）／防災教育（信州）／食育（十勝）／アンケート調査（福岡）／こどもアドボカシー（大阪）／体験格差（大阪）／学校魅力化／まちあるき／ボランティア活動や部活動の受け入れ先 など</li> </ul> </li> </ul>
<b>相互理解の課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>学校側の理解を促す</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ アンケートで実態把握をし、伝えたいことを動画に（福岡）</li> <li>○ メディアを活用して周知（福岡）</li> </ul> </li> <li>● <b>こども食堂側の理解を促す</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長期休みなどの学校のリズム、連携しやすいタイミングを知る（福島）</li> <li>○ 学校が抱く安全管理上の懸念について理解（学校施設の利用など）</li> </ul> </li> </ul>
<b>実施と継続の課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>先生方の既存の業務の中で連携</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 上記接点および家庭訪問等</li> </ul> </li> <li>● <b>予算の確保</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大型イベントにしてスポンサーを獲得（AGAIN）</li> <li>○ 行政委託事業を取る（福岡）</li> <li>○ 地元企業の巻き込み</li> <li>○ 募金活動を一緒に行う</li> </ul> </li> <li>● <b>事例の共有・発信</b></li> </ul>

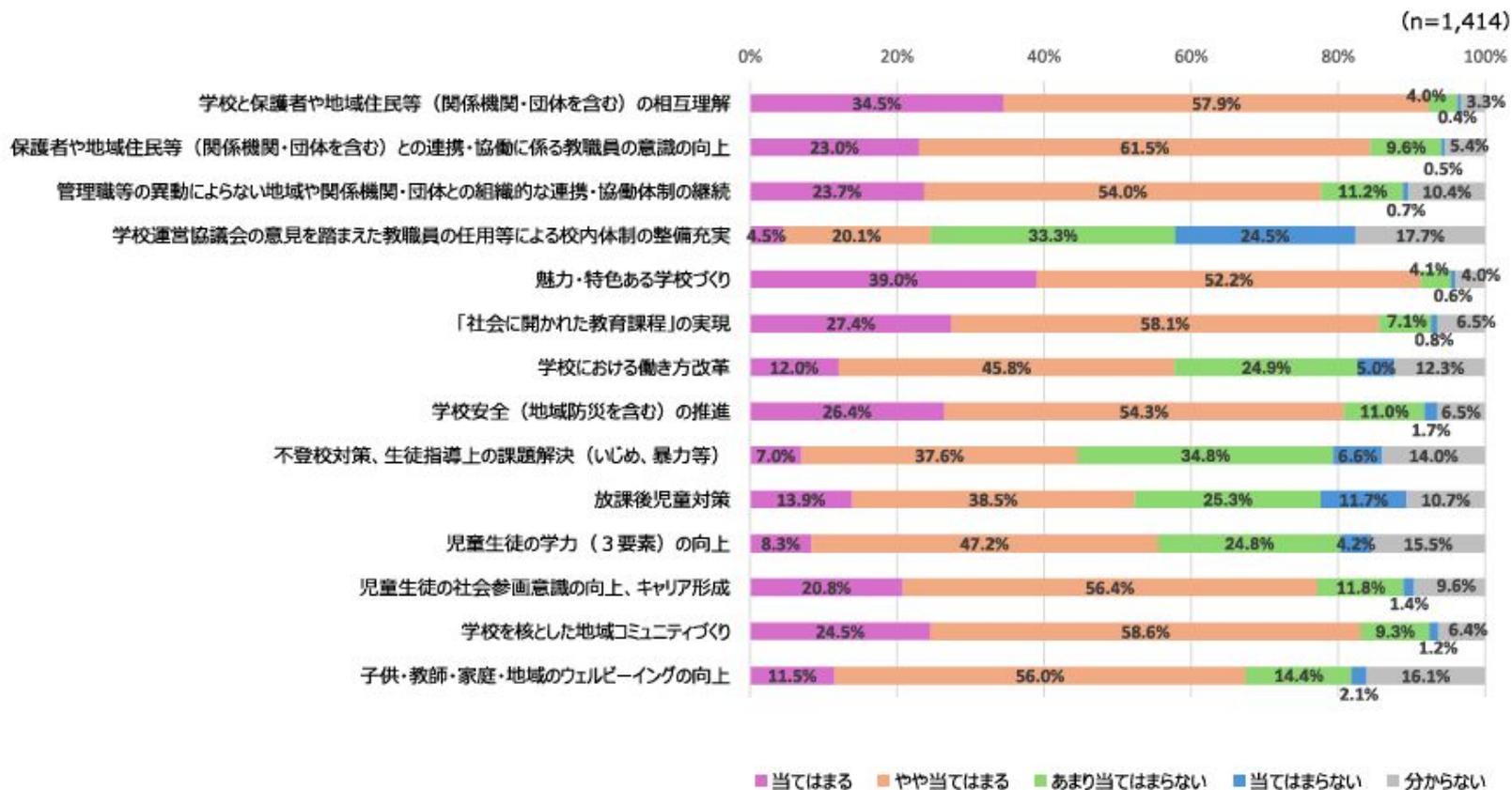


# 参考) コミュニティスクールの取り組みに係る成果実感

## コミュニティ・スクールの取組に係る教育委員会としての成果実感

令和6年5月1日  
時点

- 学校運営協議会を設置している教育委員会に対し、学校や地域の課題について、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の仕組みを活用して、取組が進んだ／成果が上がったと考えるかどうか、成果実感を調査。
- 『学校と保護者や地域住民等の相互理解』、『魅力・特色ある学校づくり』においては、90%以上の教育委員会が「当てはまる」又は「やや当てはまる」と回答した。



※図表は令和6年度コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査結果資料より引用



むすびえ

## Special Thanks

◎ こども食堂・学校 架け橋プロジェクト実施団体の皆様

ふうどばんく東北AGAIN

信州こども食堂ネットワーク

十勝こども食堂・地域食堂ネットワーク

ふくしま子ども食堂ネットワーク

福岡県こども食堂ネットワーク

大阪府こども食堂ネットワーク

◎ 支援企業

株式会社 高速

◎ 事業報告書編集協力

UmiNe合同会社